

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190600302		
法人名	株式会社 大起エンゼルヘルプ		
事業所名	グループホームなごみ米島		
所在地	埼玉県春日部市米島350-1		
自己評価作成日	令和 4年 1月 30日	評価結果市町村受理日	令和 4年 4月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 3年 3月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和3年度は、入居者8名、職員8名でスタートをきりました。なかなか入居者さんが増えていかない状況でしたが、新しい職員さんが増えました。新しい職員さんと、入居者さんでペースはゆっくりですがしっかりと認知症支援に取り組んでいくことが出来た1年でした。入居者さんの体調の変化、ADLの変化を職員皆で話し合い一つづつ乗り越えてきました。
 コロナウイルスによる規制がある中ですが、入居者さん、職員さん、ご家族の方々が「共に築く」を念頭に置きながら日々の運営を行っております。「自分で行えることは自分で」「互いに助け合って」「社会とつながって」との理念を掲げ、少しずつ地域の一員にとけこめるようにこれからも努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で開設したため計画通りにいかない一面もあるが、利用者と職員で築き上げている事業所である。開設2年を経過し理念の具現化が進んでいる。利用者の調理への参加、近隣商店への買い出しは、理念である「自分でできることは自分で」、「社会とつながって」を表している。また、「互いに助け合って」の思いを、利用者同士、職員同士、利用者と職員で一緒につくる事業所運営につなげている。昨夏、職員からの発案で開催した夏祭りは、屋台やゲーム、浴衣など多くの意見を出され利用者と一緒に作り上げ成功に終わった。準備を行う過程で職員の成長も見られたと管理者は感じている。食事は、献立から調理、食材を切る、鍋をふるう、味見をする、片付けるなどできることを手伝っている。職員も利用者から教わるが多く助けられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	なごみの理念である「自分でできることは自分で」「互いに助け合って」「社会とつながって」を柱とし運営を行っています。	開設2年となり理念の具現化が進んでいる。調理への参加、近隣商店への買い出しは、理念をよく表している。利用者同士、職員同士、利用者と職員と助け合いながら事業所運営を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスにより自粛しているところもありますが、日常的な買い物や周囲の散歩などを行っています。買い物に出かけるお店、スーパー・理容室などとの顔つなぎができてきました。	散歩中に挨拶を交わしたり、事業所の隣畑で野菜をいただいたりしている。食材購入を地域商店にて行い、併せて交流も行っている。建物オーナーを通じて地域住民との親交を深めるようにしている。	コロナ禍になっての開設2年のため、地域との交流が限られている一面がある。更なる地域との交流に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスにより、なかなか地域貢献までできていませんが、毎日入居者さんと散歩に出かけたり、ホーム前駐車場で日向ぼっこをした際に地域の方との交流が取れたりします。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響はまだ多くあり、書面での開催になってしまっています。	コロナ禍のため書面会議にて2か月毎に開催し、議事録には入居状況や行事、事故等を記載し、家族・行政・地域包括支援センター・建物オーナーに送っている。地域包括支援センター職員より地域への一層の周知をすすめられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	春日部市グループホーム連絡協議会にはFAXのみの参加となっています。	行政からは開設にあたり実地指導を受け助言を得ている。空き情報を知らせたり、感染症注意喚起や衛生品の配布等の連絡をとっている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議等で顔見知りである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会を開催しておりません。職員さんには年に2回の研修を実施しました。	年2回の研修の他、毎月身体拘束廃止委員会を開催している。何が拘束にあたるかを話し合い、欠席者には資料を配布、伝達研修を行い共有している。制止の言葉に対して、時間を割き原因を考え、事前の準備をすることにより制止の言葉を減少させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の虐待を防止する研修を行い、職員さんに虐待への知識を深めていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者さんに後見人制度をご利用されている方はおりませんが、今後の入居者さんに対応できるよう制度について学んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し、管理者から重要事項説明書をもとにご家族に理解・納得していただけるように配慮しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんの体調、状況の変化をご家族にはお知らせし連携を取っていきます。	来所時や電話で意見を聴いている。往復書簡にてやりとりもしている。事業所の様子を知りたいとの意見に、写真や一行日記等で伝えている。2ユニット目の開業にあたり意見の集約を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などを通し、職員さんの意見を出していただけるようにし、運営に反映させております。 新しい職員さんへ、なるべく多くの反せる機会を設けています。	会議や申送りではもちろん、普段からも意見を聴くようにしている。職員発案で開催した夏祭りは、多くの意見を出し合い一緒に行う過程で職員の成長も見られた。休みの希望も聴いており、有給休暇の取得率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員さんが自分自身の仕事に自信を持てるように管理者や先輩職員が話を聞く機会を設けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の特徴をとらえ、個々の個性を生かせるように伝えていきたいと思えます。 事業所内研修だけでなくWebを使った研修に参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り同業者との連絡が取れるように時間を設けていきます。年末にはWEBでの交流会に参加させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にできる限り入居者さんご本人の思いをくみ取れるよう努力しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接で、出来る限り詳しくお話をお聞きます。なるべく不安が小さくなるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「何が出来て」「何に支援が必要なのか」入居後にはしっかり確認ができるように取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り今までの生活環境に近い生活が、グループホームという共同生活の場で実現できるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との距離が離れすぎないように、ホームでの状況などお伝えし、家族との関係を大事にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響が大きいですが、ご親戚、お孫さんなどとの関係が崩れないように支援に努めています。 面会も、感染予防を行ったうえで小規模ながら行っています。	家族や友人からの郵便物や電話の取次ぎをしている。行きつけの理容店に継続して行く人もいる。家族写真から家族の話題にふれたり、地域出身の職員が地域の商店・食べ物等の話題で想起を促している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士が大きなトラブルにならないよう、職員が間に入り対応していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後もご家族様との関係性を大事にし、なごみ米島以後のサービスに上手につながるよう支援していきます。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「自分のことはなるべく自分で」行なえるようにま守ることを続けていきます。	家族情報や生活歴から暮らし方の希望の把握をしている。さらに日常生活で何を思っているか表情や言動から察知し職員間で話し合っている。居室で時間をかけゆっくりと話を聴くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のお部屋にはなじみのある寝具や洋服を用意していただき、今までの生活に近い空間造りに心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝起きて、夜寝る。1日3食をしっかりと食べるといった大まかなスケジュールの中で入居者さんらしい生活が送れるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者・計画作成担当者を中心に、職員会議で入居者さんらしい生活ができるように支援していきます。 家政にとらわれすぎず、散歩やドライブなどで入居者さんの気持ちと向き合ってきました。	3か月毎を基本として、状況変化時は随時見直している。記録用紙を見返しながらケアカンファレンスを行い、できることを検討している。ゴミ捨ての継続等を計画に記載している。作成後、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙は当社で決められている書式を使い、わかりやすくしています。ケアプランに反映できるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共同生活の中でできる限り、その人らしく生活ができるよう支援していきます。 感染予防に努めながら、ホームだけで完結しない方法を考え、取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナウイルスにより買い物などは自粛しています。落ち着いたときには、入居者さんと一緒に地域に出かけていきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関係を家族の協力を得ながら続けています。	提携医は月2回の訪問診療があり、24時間の電話対応が可能である。専門医へも紹介をしている。毎週看護師の訪問があり、体調チェックや健康相談に対応している。食物繊維の多い食材について助言をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護が全員にあり、入居者さんの体調や状況の変化などがあるときには相談させていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院の際にご家族とともに可能であれば管理者が同行させていただき、関係性を築けるように努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では重度の入居者さんはいないので、今後どのように状況が変わっていくかをご家族様と話す機会を設けていけるようにします。	契約時に重要事項説明書・指針を基に説明している。状況により変更可能なことも説明している。経口摂食が難しくなった場合、医師・事業所・家族で話し合い、方針を考えることにしている。毎年看取りの研修を行っており、その時の準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者さんの急変はあまりないのですが、緊急時の連絡先や順番などをマニュアル化し職員で共有していきます。急変時にしっかりと手立てが取れるよう、職員会議で話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練や、通報訓練を通じ職員さんへ災害に対する意識付けを行っています。	避難訓練は年2回実施している。出火場所、時間帯を変えて避難方法を検討している。水害に対してもハザードマップを確認し実践的な計画を作成中である。緊急連絡網を作成し食料品や非常用バッテリー等の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんには「さん」をつけて読んでいます。 排泄や入浴などではプライバシーを守るよう配慮した支援を行っています。	個人情報、鍵付き書架に収納し、日常的な記録類は事務所で記入している。パソコンは、ID、パスワードで管理している。入職時、プライバシーについての研修をしており、声掛けは、目上の人への関わりと意識して行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の食事の献立を入居者さんの意見を取り入れるようにしています。日々生活の中で、自身の思いを聞けるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、今までの生活に近い生活ができるように、ご自身の意思で動けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性であれば毎朝ひげをそったり、外に出かける時には自身で服を選んでいただたりできるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事ごとに入居者さんのできることを行っていただき、一緒に準備や片づけを行っています。	献立、買い物、調理、片付けと利用者が参加している。食材の買い出しには、近隣の商店、精肉店等を利用して地域との交流にもなっている。職員が調理しているため利用者の好みや量など細かい面まで配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細かい栄養バランスはとれていませんが、食事量や水分量を記録し、健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。口腔内の変化を職員さんが確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄をしていただけるように支援しています。ご自身でトイレに行かない方には声をかけトイレに行けるようにしております。	トイレの場所を分かり易く表示している。記録表を活用しながら定時誘導している。紙パンツやパッドの枚数を減らせるよう職員間で話し合っている。トイレ内に保管している個人用パッドはケースに収納して目立たなくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤に頼らないように、水分量や、食事の献立に気をかけております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人で入浴できる方には準備と見守りを行っております。入浴できる回数と、入浴時の満足度を考え支援しております。	入浴は、週2回が基本であるが増回も可能である。好みのシャンプー、石鹸を利用している人もいる。リフト浴もあり車いすの方でも対応可能である。拒否があれば、無理強いすることなく時間や曜日を変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜にしっかり眠れるように、日中の活動に取り組んでおります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては職員が事務所で管理しています。毎食後、職員同士でチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さん一人一人に合わせた生活を目指し、出来ることを職員さんが奪ってしまわないように心がけて新しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルスの影響で外出できる機会が減っていますが、密にならないところへの散歩や、ドライブなどでホームだけで生活を完結しないように心がけています。	天気の良い日は散歩に出かけている。近くの神社に初詣に行ったり、季節には桜や藤などの車窓見学をしたりしている。桜見学では、穴場スポットに行き、大変好評であった。敷地内には、花壇、植栽も多くあり、外でコーヒーを飲み外気浴を楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は個人では難しいため、入居者さんがお金を持っていませんが、家族より預けて頂いたお金で、欲しいものなどあれば買いにいけるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来るだけ自宅と同じような環境で過ごせるように努めております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さん、職員さんが一緒に掃除ができるように支援しております。自身のお部屋も、居居力市掃除するようにしております。	フロアでは、体操やレクリエーションが行われている。壁面には、季節にあわせた制作物が飾られている。ソファでくつろいだり、DVDで人気の番組や映画、民謡等を視聴している。コーヒーマーカーを設置しており本格的なコーヒーが楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になれるところは多くありませんが、キッチン内や、事務所などで落ち着けるように声をかけることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご自身になじみのあるものを多く使用し、今までの生活に近い空間を作れるよう努めております。	照明、エアコンは備付である。琉球畳が敷かれており、布団でもベッドでも可能である。利用者は、自宅からの家具や愛用品を持ち込み、家族写真を飾ったりして個人の空間を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビングなどには段差がなく、自身で歩くことが続けられるようになっています。壁紙もシンプルで、入居者さんがいききたい居室や、トイレがわかるようになっています。		